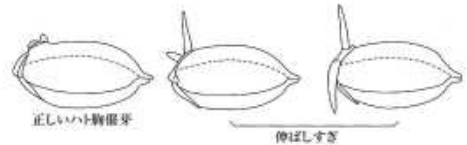




## 水稻種子の取り扱い注意点について

### ●消毒・浸種・催芽のポイント

- ①薬剤消毒を行う場合については、防除効果の安定をはかるため薬液の温度は10℃～15℃を確保してください（温度が低いと効果が劣ります）。
- ②浸種については積算温度100℃を目安に、水温10℃～15℃が確保できる4月から開始するようお願い致します。（10℃以下で浸種した場合、休眠性が深まる場合がありますのでご注意願います。）また、最初の2日間は水を交換せず、その後1日置きに水を交換し、酸素供給を行って下さい。気温が上がり、水温が高くなると、浸種中に芽が動き出しますので播種日から逆算して作業を行って下さい。
- ③催芽も目安については温度は30℃～32℃とします。  
 芽の長さは1～2mmのハトムネ状態とし、芽の伸ばしすぎに注意して下さい。



### ●床土の準備

- 肥料・農薬の混合については、播種作業の1週間前を目安に行ってください。
- 育苗用肥料の使用料目安
  - ・ 稚苗用2号使用の場合は40g/箱      ・ ロング肥料使用の場合は70g/箱
  - ・ 稚苗用2号とロング肥料を混合使用の場合 稚苗用10g/箱・ロング50g/箱
- 床土混和できる農薬について

区分	農薬名	箱あたり 使用量	対象病害虫
殺菌剤	タチガレエースM粉剤	6～8g	フザリウム菌・ピシウム菌
殺菌剤	オラクル粉剤	10～15g	ピシウム菌 ムレ苗防止
殺虫剤	フェルテラ箱粒剤	50g	トモイシ・イネズソウムシ・フタヒコヤガ
殺菌殺虫剤	ツインターボ箱粒剤08	50g	いもち・イネトモイシ・イネズソウムシ
殺菌殺虫剤	ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g	いもち・イネトモイシ・イネズソウムシ ウカガ類・フタヒコヤガ・イネヒメモグリハエ

### ●耕起・代掻き

- 耕起は稲の順調な生育に必要な養分吸収ができる根域（目標15cm以上）が望ましいとされておりますので、できるだけ耕深の確保をお願い致します。
- 代掻きは作土の透水性を維持させるために浅めにし、田面の均平に留意します。
- ※耕起・代掻きが不十分だと、前作の稲ワラが浮遊し田植え時の植付制度を低下させたり、除草効果が低下したり、薬害が発生する場合がありますので注意します。